

講評文

12月24日 1番目

成章高校

「お葬式」

祖父を亡くしたトモコ。そして彼女の友達の子ヨシとユウタと共に死と向き合う、彼らの成長を感じられる話でした。

キャストについては、動きやセリフ回しなどが本当の小学生のようでした。前半から後半にかけての感情の変化が分かりやすく、そして後半の迫真の演技に心を揺さぶられました。照明は特に葬式の音頭を取っているシーンで、虫たちのお墓にスポットが当たることで虫たちの死がより感じられ、トモコたちが捕まねなければもっと長く生きていたのかもしれないことを表現しているのだろうかと感じました。音響は序盤では明るめの音楽が使われていたのに対して、後半では冒頭のトモコの祖父のお葬式のシーンで流れていた悲しげな音楽が再度使われることでトモコ達の心境の変化を感じられました。大道具に関して、祖父の棺が子ヨシとユウタの電車ごっこに電車に変化することでスムーズながら自然に舞台変化がされているところが工夫されていると思いました。そして草やベンチ、丸太によって舞台の情景を分かりやすく、そして奥行きを持たせていることが、素晴らしいと思いました。衣装は一目で小学生だと感じさせるものということに加えて、夏という季節を分かりやすくしていました。

最初は子どもの無邪気で純粋さが感じられ、思わず笑ってしまう場面が多くありました。ですが、後半にかけて死の不条理と不可避性に気づき理解したトモコ達に哀しさを感じました。特に哀しさを感じたのは最後トモコたちが穴を掘るシーンです。もう霊柩車で運ばれて既に火葬されているであろう祖父の火葬をやめてもらってここに埋めてもらうと言うトモコの必死さに胸が締め付けられるようでした。私の祖父の葬式を思い出してしまいました。私もトモコのように泣けませんでした。後で喪失感を感じて空虚な気持ちになった当時の私になったようでした。トモコたちの虫たちへの考え方など子ども時代を思い起こさせる親近感がありながらも死の残酷さを感じさせました。とても面白く、生死、そして共生と弱肉強食の矛盾を感じさせる劇でした。お疲れ様でした。